

優秀賞

事故から学んだこと

小郡市立宝城中学校 3年 山川 拓朗

「うわ、ぶつかる。」

と、言おうとした時にはもう間に合わず、僕は今年の十一月に自転車で下校中に車との接触事故を起こしてしまいました。

その当時は、何が起こったのかわけがわからなくなって、少しの間記憶もあいまいになっていました。でも、救急車で病院に運ばれてから、ようやく自分が車にひかれたことを自覚し、それから入院していた間は、事故の相手の方はもちろん、先生方や家族、友達など、たくさんの人に大きな迷惑と心配をかけてしまったことを後悔する気持ちでいっぱいでした。僕はヘルメットをがぶっていたおかげで左あごを骨折して、足などを軽くぶつけただけで済んだので、今年の二月頃には完治しました。傷が治ってきたころには、自分が事故を通して、様々なことを学ばせてもらっていたことに気づきました。

まず一つ目は、小さな物事でも、一つ一つ丁寧にこなしていくことの大切さです。とてもあたりまえのことかもしれませんが、自分にとってはとても難しいことだと感じます。この事故も元々は自分が交差点でしっかり止まっていれば起きなかったはずでした。これは、「止まる」という基本的な動作、あたりまえと思われていることをしなかったから、事故が起きてしまったと言い換えることもできます。小さな事の積み重ねで今の自分が成り立っていることを再確認できました。

二つ目は自分の周りにいる人の優しさです。病院の医者や看護師の方々は、朝から夜までたくさんの患者さんに対して、優しく丁寧に対応されていたし、クラスのみんなは手紙を書いてくれて、とても心配してくれました。人の素の優しさを感じ、改めてみんなのおかげで自分が生活できていることを実感できました。

そして何より、自分がいつ、どのような体験をするかはわからないなと思いました。一つ目の学んだことをふまえて、僕は「急がば回れ」や「塵も積もれば山となる」などのことわざも頭に入れ、いつも丁寧に、しん重にと心がけています。それでも、失敗はあるし、事故を起こしたように、自然災害にあう可能性も十分あるので、やっぱり日ごろからの備えや心構えはどんな時でも大事だとも考えました。

本当はもっと考えたり、感じたりしたことがあるけど、最近によく、事故を起こした時の自分のように、平気で交差点へ飛び出したり、道路標識や、左側通行を守らない自転車の乗り方をしている人を見かけます。ルールを守らないと大けがをして、その人はもちろん、周りの優しい友達や家族も悲しませてしまいます。これ以上自分のような失敗をする人が出て来て欲しくありません。そのために、日ごろから交通安全には十分気を配ってもらいたいです。